

2016 年度事業報告書

2016 年 9 月 1 日 ～ 2017 年 8 月 31 日

特定非営利活動法人 Child First Lab.

1. 事業の成果

今年度は情報技術開発事業におけるアプリケーションソフト開発を主幹事業と位置づけ、クラウドファンディングによる資金調達と開発、広報活動に注力した。クラウドファンディングでは166名の方からご支援をいただき、目標額を上回る165万1千円の寄付が集まった。まずは子ども虐待対応にあたる現場の専門職の判断をサポートするアプリの開発を目指し、産業技術総合研究所人工知能研究センターと連携して、AIによる虐待の再発率予測のモデリングとリコメンド手法の開発に取り組んでいる。

啓発事業では昨年度制作したコンテンツを活用し、学会における活動報告、リスティング広告（検索ワードに対応して検索結果に表示される広告）掲載を行なった。広報活動の結果、アクセス数は大幅に増加している。

情報集約化事業では、子ども虐待と地域のソーシャル・キャピタルの関連をテーマにしたシステムティック・レビューの一部を、「レジリエンスは子ども時代の虐待被害による将来の精神的不調を緩和するか」との表題で、学会誌上で発表した。

多機関連携支援事業においては、関連他団体と連携しながら講演活動を開始した。

2. 事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業

【子育て・子ども虐待についての情報技術開発事業】

①子ども虐待アセスメントアプリの開発

昨年度に引き続き、子ども虐待の被害状況やリスクをアセスメントするアプリケーションソフトの開発を進めた。

当NPOで高岡が元々持っていたバックグラウンドIP（虐待対応の数値・テキスト・画像データの収集、再発率予測シミュレーション、そして子どもの年齢に合わせた話の聞き方リコメンド機能を持つアプリおよびAI）は、現在二つのIPに分割して開発を進めている。

一つ目のデータの分析によるシミュレーションとリコメンド部分に関するAI利用は、産業技術総合研究所人工知能研究センターにてNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）による開発をNEDOフォワードIPとして継続している。現在元々のデータ分析機能をAIで加速させ、虐待の再発率予測のモデリングとリコメンドの技術実装に取り組んでいる。このAIは、**データに基づき何（What）をしたら良いのか？**をアシストするこ

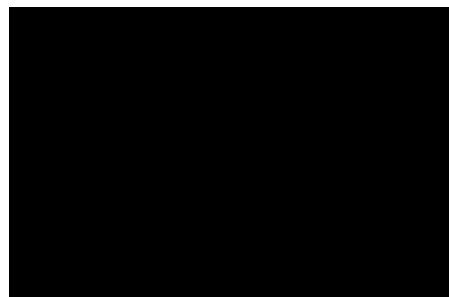
とが目的となる。具体的な対象は、現在データが集まる児童相談所などの行政機関を対象とし、主に虐待が疑われ、介入がなされる部分について検討している。例えば、一時保護する場合としない場合で、再発率はどのような違いになるか予測シミュレーションを行うことで、その結果に基づき、具体的な望ましい対応を提案するという仕組みを設計している。現在三重県児童相談所と連携しており、来年度以降さらに都道府県との連携を加速させるため、様々な都道府県に打診中である。

一方、我々NPO 側は、元々のバックグラウンド現場の知識や論理をモデル化し、現場の困難事例に対して、**どのように（How）対応したらよいのか？**を科学的かつ臨床的にアシストすることが目的となる。具体的には、保護が必要だと判断された場合、どのように出動態勢を維持するのか、どのように目の前の子どもに説明したら良いか、どのように保護者に伝えたら良いかなどを提案することが目的である。現在、SNS と連携し、現場の問題から一般的な予防的問題までを広く対象とし、リサーチを行い、知識ベースの技術開発を目指している。

最終的には、上記二つの IP を統合し、リリースを予定している。

②クラウドファンディングの目標金額達成

2016 年 10 月～12 月にクラウドファンディングサイト「CAMPFIRE」に「AI×ビッグデータで、子どもを虐待から救う！」と題したプロジェクトを立ち上げ、前項のアプリ開発の資金について寄付を募った。その結果、166 名の支援者から寄付をいただき、目標額を上回る 165 万 1 千円が集まった。



③アプリ開発に関する事業説明会実施

2017 年 5 月 21 日、東京国際交流館プラザ平成にて、クラウドファンドリターン対象者に対して、事業説明会を実施した。当日は代表理事より、日本における子ども虐待の実態や、わが国における虐待対応の課題について述べ、現場のニーズに即した問題解決アプリケーションとデータベースを用いて効率的かつ効果的に現場を支援するアイデアを紹介、その後約 20 名の参加者と質疑応答を行った。今回のディスカッションの結果はアプリの仕様にも反映させる予定である。



実施期間	①2016 年 9 月～2017 年 8 月 ②2016 年 10 月～12 月 ③2017 年 5 月 21 日
実施場所	①法人事務局・ブリティッシュコロンビア大学→産業技術総合研究所人工知能研究センター ②法人事務局 ③東京国際交流館プラザ平成
従事者の人数	6 名
受益対象者の範囲	①②子ども虐待被害者、及び被虐待児と接する可能性のある職業につく人々（不特定多数） ③子ども虐待支援者等 20 名
事業費の金額	200,366 円

【子育て・子ども虐待についての啓発事業】

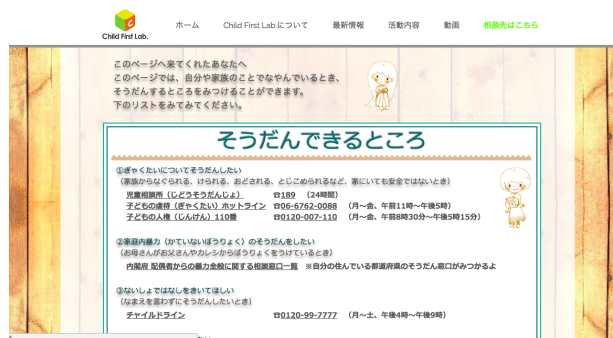
①日本子ども虐待防止学会における活動報告

2016 年 11 月に開催された日本子ども虐待防止学会・第 22 回学術集会において、「思いがけない妊娠時の対応に関する知識を広めるために－Web 動画と GoogleAnalytics を用いた検討－」との演題で、動画「妊娠…？ どうしよう」作成の目的と効果について口頭発表を行なった。



②当事者に向けた相談先一覧ページの開設

団体公式サイトに、支援を求める子どもを対象とした外部の相談機関一覧ページを開設した（URL: <https://www.childfirstlab.org/blank-1>）。児童相談所、妊娠 SOS など、内容・目的別に相談先を分類し、掲載した。



③妊娠・出産に関する情報提供 Web ページの広告掲載

インターネットでの検索ワードに応じて検索結果に広告を表示するリスティング広告サービスを用いて、昨年度公開した妊娠・出産に関する情報提供 Web ページ「にんしん相談室～教えてエミコ先生～」の広告を掲載した。2017 年 4 月の掲載開始から半年間で、広告の延べ表示回数は約 103 万回、うちクリック数は 2.5 万回である。広告の効果により、ページアクセス数はそれまでの月平均約 200 件から約 6,000 件へと飛躍的に増加した。

(URL: <http://www.childfirstlab.org/ninshin>)

※この事業は Google の非営利団体向けプログラム Google for Nonprofits の支援を受けている。

実施期間	①2016 年 11 月 25 日・26 日 ②2017 年 4 月～8 月 ③2017 年 4 月～8 月
実施場所	①大阪国際会議場 ②③法人事務局
従事者の人数	6 名
受益対象者の範囲	①子ども虐待支援者約 30 名 ②子ども虐待被害者、自身または家族のことで悩む子ども (不特定多数) ③思いがけない妊娠・出産に悩む人々、自身または近親者

	にその可能性のある人々（不特定多数）
事業費の金額	43,253 円

【子育て・子ども虐待についての情報集約化事業】

①レビュー論文「レジリエンスは子ども時代の虐待被害による将来の精神的不調を緩和するか」発表

逆境経験を乗り越える心理的資源とされる「レジリエンス」が高いと、子ども時代に虐待を受けても、将来メンタルヘルス不調にならないか、世界各国の学術研究を系統的に収集して結果をまとめた。本研究成果は、日本子ども虐待防止学会学術誌「子どもの虐待とネグレクト」に 2017 年 8 月 2 日付けで受理され、19 号 2 巻に資料として掲載された。

実施期間	2016 年 9 月～2017 年 7 月
実施場所	法人事務局
従事者の人数	6 名
事業費の金額	0 円

【子育て支援に関する多機関連携支援事業】

①外部講演会における登壇

多機関連携の一環として、他職種や関連他団体を対象とした講演活動を開始した。今年度は NPO 法人 OVA 主催・法人設立 3 周年パーティー「人工知能はソーシャルグッドの夢を見るか」において、代表高岡が登壇し、福祉領域における人工知能の活用について講演した。

実施期間	2017 年 8 月 5 日
実施場所	株式会社 campfire
従事者の人数	1 名
事業費の金額	0 円

【子育て支援者のための研修・交流事業】

当年度は未実施

(2) その他の事業

【情報コンテンツの販売（計画）事業】

①Web サイト管理受託

一般社団法人「全国妊娠 SOS ネットワーク」の Web サイトの管理委託契約を更新し、今年度も受託した。研修・講演会等の情報を随時更新している。

実施期間	2016 年 9 月～2017 年 8 月
実施場所	法人事務局
従事者の人数	2 名
事業費の金額	0 円

②動画データの販売

啓発動画「妊娠…？ どうしよう」のデータを啓発活動教材として他団体に販売した。当年度の販売件数は 2 件である。

実施期間	2016 年 9 月～2017 年 8 月
実施場所	法人事務局
従事者の人数	1 名
事業費の金額	0 円

【子ども虐待に関する研究（受託）事業】

当年度は未実施

以上